

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール（スタッフ用：1～39）

帳票A

※帳票Bも実施のこと

事業所名：ニチイケアセンター 帝塚山

作成者：河合 正

記入日：2023年 7月 20日

（事業所としての自己評価日） 2回目

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営				
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	「今を大切に！その人らしく暮らせる様に支援する。開所当初から受け継がれスタッフ共有しケアに生かされています。
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	B	町会役員の方・北地域包括支援センターとの連携を毎月しています。運営推進会議・夏祭り・回覧板など
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B	まだ畫面にしていますがコロナ対策の現状など情報共有して取り組んでいます。
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	運営推進会議の議事録の報告やトラブル報告などを伝える。
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	入居者1名つなぎ版で委員会を開催し家族様の同意を得ながらケアを継続しています。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	B	きつい声掛け・責めなどの原因などみんなで共有し共に注意しあっている。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	成年後見人の活用は年々多くなっているで話し合う機会が増える。
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	入居に際し事前に渡し熟読してもらっている。
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	顧客満足度調査・日々の面会時の意見感想など聞き実行できるものは工夫して運営に生かしています。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	現場に関してはフロア会議などでみんなの意見を反映している。
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A	1か月半前に翌月のシフトができる際、公休希望有給など聞いてできるだけ反映している。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	スタッフの先輩たちがアドバイスをしている。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	B	住吉区内のグループホームの集まりがあり意見交換している。
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	スタッフ自身の祖父母のように接し思いを寄せる。
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	なじみの場所・人など会話の中に入れ日々突ったりしている。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール（スタッフ用：1～39）

帳票A

※帳票日も実施のこと

事業所名：ニチイケアセンター 帝塚山

作成者：河合 正

記入日：2023年 7月 20日

（事業所としての自己評価日） 2回目

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述
II その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A	日々声掛けしご本人と話をしている。認知症の方なので日々意向が変わりそこを楽しんで笑いに実えている。
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A	フロア会議でのカンファレンスを通じて現場ケアの状況を聞き計画に反映している。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A	介護記録に記載し送りノートなどでスタッフ間の伝えもれない様に工夫している。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B	本人の認知症の進行とともにニーズが変わり家族様に伝えていく努力をしている。
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	C	介護保険外サービスとしてコロナ禍ボランティアコース呼べなかったり地域資源の活用がストップしている。
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	往診は2週間に1度・訪問看護週に2回来ている。
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	コロナ禍においても医療連携室との情報交換の連絡を取り合っている。」
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	医療連携をとりながら緊急時の対応・延命処置・看取りの対応話し合っている。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	消防訓練時に救命処置等研修し119番通報・救急隊員に渡す個人ファイル・スタッフの緊急連絡網などチェックし共有している。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	避難訓練を年2回日中夜間でして町会とも避難時の対応（黄色のタオルを玄関先につけるなど工夫している。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール（スタッフ用：1～39）

帳票A

※帳票日も実施のこと

事業所名：ニチイケアセンター 帝塚山

作成者：河合 正

記入日：2023年 7月 20日

（事業所としての自己評価日） 2回目

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A	何かにつけ声掛けは大切なので思いやる気持ちを大切にしている。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	C	スタッフ不足もあり日中でも休憩時間帯など一人でフロアを見守るのでつきついたり口調になる時がある。
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	B	食事の提供できざみかブレンダーが良いか確認したり食器拭きを手伝ってもらったりする。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B	積極的に取らない方へは本人に現状の水分量なりを伝え少ないことをわかってもらい促す。お風呂前にも水分を摂ってもらう。
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	口腔ケアは大切なので毎週水曜日デンタル・衛生士による消毒をしている。毎食のスタッフによる口腔ケア実施している。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	リハバンを使いだすとすぐやめられなくなるので布パンでの失敗を覚めずなるべくご自身と相談しながら支援している。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	C	今は日中2名でケアに当たっているので3日に一度の入浴ローテーションになっている。好きな時には無理なので入ってもらった時にほほえみ温泉でゆっくりしてもらっている。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	日中でも座りっぱなしにならない様にお部屋で横になり体を休める。
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B	お薬の処方自体は提携医の指示のもと出るので確実に服用してもらえよう様に支援している。副作用については日々の観察大事なので何日出でいないか確認し対応している。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	C	認知症の進行に伴い変化していくが声掛けして気分転換をしてもらう。家事仕事・写経・玄関前の散歩
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	C	コロナ禍で家族様との外出などできなくなる。やっとリハビリにて外での散歩・気分転換をしている。
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	C	お金の心配をされる入居者様多いですが認知症の方なので直接使うことはないですが預かっておきますねなどの都度その都度声掛けする。
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	ほほえみ新聞では写真を利用してコメントを書いて毎月家族様に送っています。在宅からのご入居に多く形態を持って来られる。ただ認知症の方なので家族様ごとの登録にしています。
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	お部屋は分かれているので個々に守られている。天候不順でなかなか四季を感じる機会が少なくなってきたが料理や天候の話をして過ごしています。